

生活館



生成する場としての美術

那覇市農連市場痕跡プロジェクトは、2002年11月23日～12月8日、wanakio2002の「まちなかのアート展」に琉球大学永津ゼミが参加し、学生・院生を中心に遂行された。

プロジェクトリーダーを務めたのは大学院1年次の片野坂達也で、彼の発案により、農連市場の空き倉庫を利用した展示スペースには回転扉が設置された。農連市場内の地面や床、壁、柱などの傷跡、痕跡を収集するプロジェクトとして広く一般の方々へも参加が呼びかけられた。

展示空間の内部では、樹脂で型取られた痕跡が闇の中にかすかな照明で浮かび上がり、あたかも博物館のような雰囲気を醸し出していた。

大学院1年次の新垣綾子の収集した痕跡は、市場で暮らす人々が噛み捨てたチューインガムを執拗に追い求めたものである。当初は、このような学生・院生の収集物や、これに関わるレポートが展示されているのみであったが、徐々に一般の参加者の収集物やレポートが加わり始めた。

アートイベント wanakio の「まちなかのアート展」が意図したのは、完成した作品を遺物として展示することではなく、芸術としてはまだ未分化なものが人々の活動に溶け込みながらその場所で生成しつつある状態を示す試みであった。

この「生活館」では、裏寂れた博物館のような空間の中で、まさに wanakio が意図した通り、「生成する場としての美術」が成立するという希少なプロジェクトとなった。

なかでも、高木正樹、山本由美子、マユミ各氏のレポートは感動的なものであり、これらについては展示会場に置かれる形で、それぞれ既に別冊としてまとめられているので、是非とも多くの方々に読んで頂きたい。

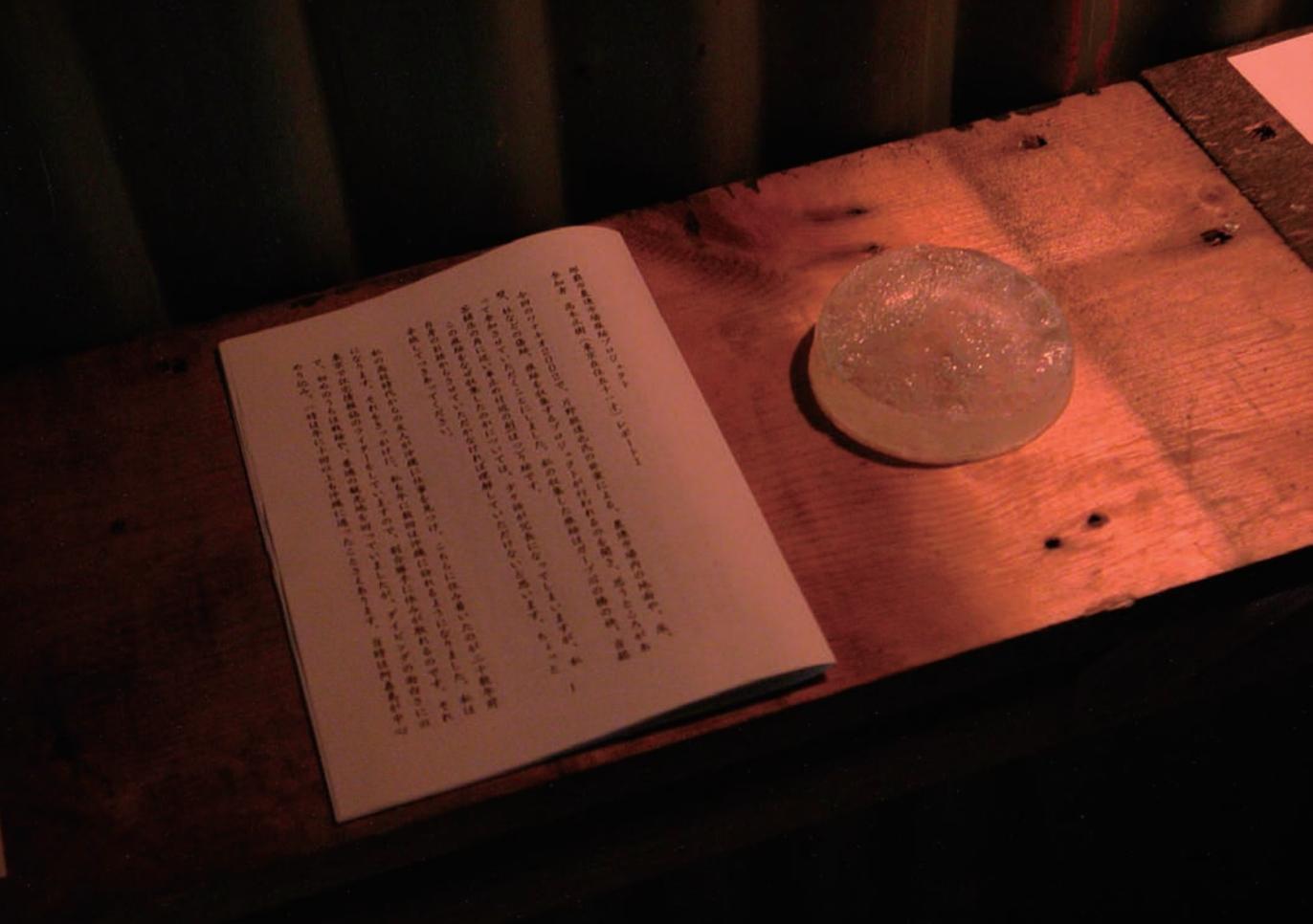
wanakio2002 那覇市農連市場痕跡プロジェクト「生活館」

2002年11月23日～12月8日

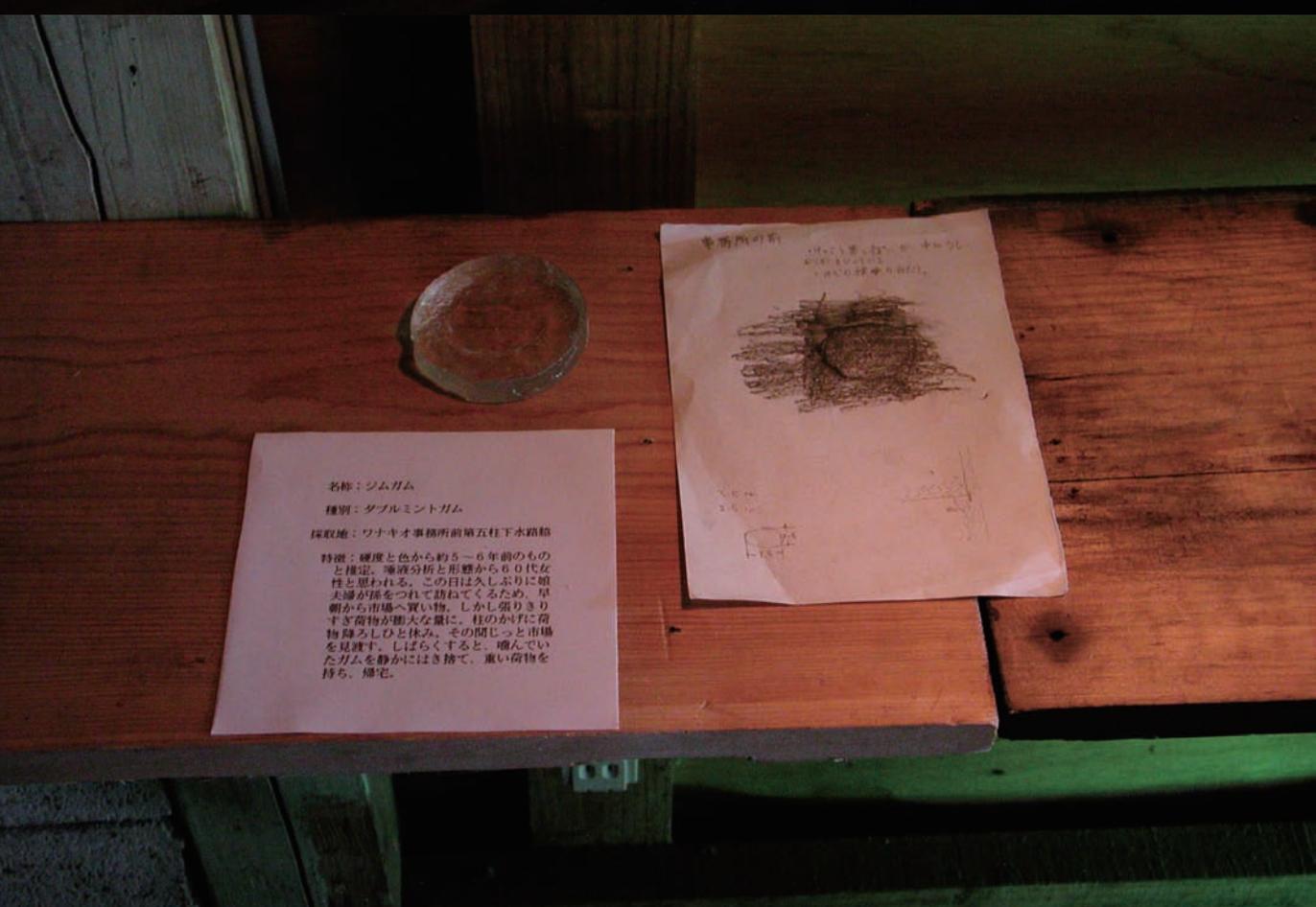
農連市場（那覇市樋川）

琉球大学教育学部 永津禎三ゼミ



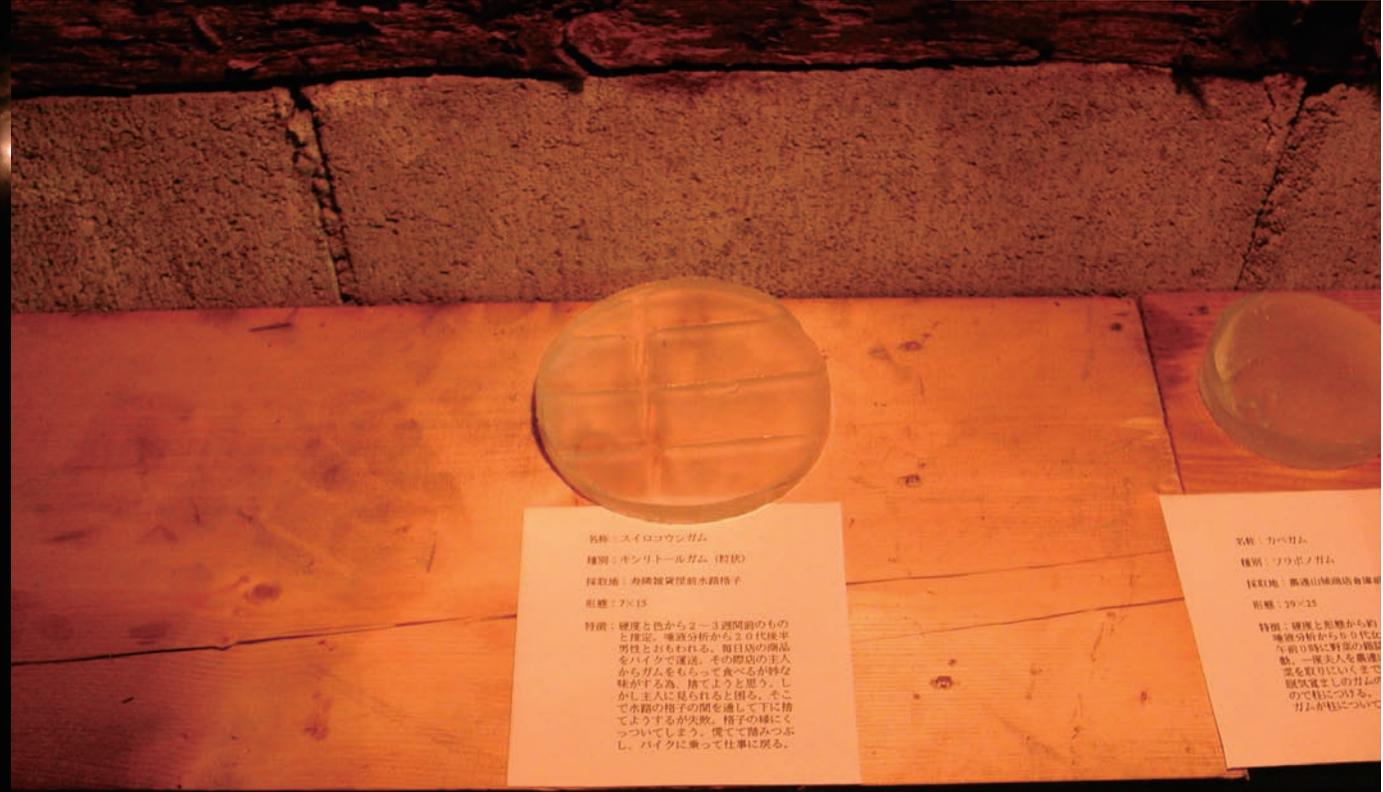
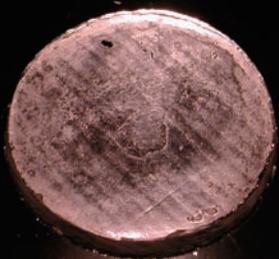


昭和10年（1935年）に、東京府葛飾区新小岩の住人、佐藤清一氏から、このガムが出土した。佐藤氏は、このガムを、東京府立博物館に寄贈した。このガムは、硬質で、透明な球状をしており、直径約1.5センチメートル、厚さ約0.5センチメートルである。佐藤氏は、このガムを、東京府立博物館に寄贈した。このガムは、硬質で、透明な球状をしており、直径約1.5センチメートル、厚さ約0.5センチメートルである。



名称：シムガム
種別：サブドミンントガム
採取地：ワナキオ事務所前第五柱下水路脇
特徴：硬度と色から約5〜6年前のもの
 と推定。薄層分析と形態から60代女
 性と思われる。この日は久しぶりに娘
 夫婦が孫をつれて訪ねてくるため、早
 朝から市場へ買い物。しかし張りきり
 すぎ荷物が膨大な量に、柱のかりに荷
 物降ろしひと休み。その間じっと市場
 を見渡す。しばらくすると、増んでい
 たガムを静かにほき捨て、重い荷物を
 持ち、帰宅。





名称：スイロウガン
 種類：キシリトールガム（特許）
 採取地：沖縄県読谷郡水路種子
 形態：7×15

特徴：硬さと色から2〜3週間前のものと推定。薄紙分析から20代後半男性と思われる。糖質以外の成分をハイタクで確認。その際の店の主人からガムをもらって食べるが特別な味が平気。捨てようと思う。しかし主人に見られると知る。そこで水路の種子の間を通して下に捨てようとするが失敗。種子の縁にこっついてしまう。僕でて踏みつぶし、ハイタクに乗って仕事に戻る。

名称：カベガム
 種類：フリボノガム
 採取地：鹿児島県薩摩郡高瀬町
 形態：30×25

特徴：硬さと形から約1週間前のものと推定。薄紙分析から20代前半男性と思われる。糖質以外の成分をハイタクで確認。その際の店の主人からガムをもらって食べるが特別な味が平気。捨てようと思う。しかし主人に見られると知る。そこで水路の種子の間を通して下に捨てようとするが失敗。種子の縁にこっついてしまう。僕でて踏みつぶし、ハイタクに乗って仕事に戻る。



wanakio archives

前島アートセンター編集
2003年3月30日発行